

増上寺の歴史

何世紀にもわたって、増上寺は日本の歴史において重要な役割を果たしてきました。増上寺は江戸（現在の東京）がまだ小さな村だった 1393 年、江戸城（現在の皇居）のすぐ南西に建立されました。

1590 年、戦国武将徳川家康（1543-1616）は拠点を江戸に移しました。家康はこの後 1603 年から 1867 年まで日本を統治した徳川幕府の創始者となり、彼の城は幕府の軍事的拠点となります。

ある日、増上寺の住職が用意した朝食を食べながら、家康は増上寺を徳川家の菩提寺とし、よって増上寺と幕府は一蓮托生とする、と宣言しました。

1598 年に現在の場所に移転した増上寺は、家康の庇護の下、ますます影響力を強め繁栄するようになりました。1616 年、家康の葬儀が増上寺で執り行われ、家康の遺体は別の場所に埋葬されたものの、徳川家はその後も増上寺を支援し続けました。増上寺の境内にある精巧な霊廟には、他の徳川家の人々とともに徳川将軍のうちの 6 人が埋葬されています。

増上寺は東日本の浄土宗本山であり、この宗派では総本山である京都の知恩院に次いで重要な寺院です。最盛期の増上寺は東日本では並ぶものがないほどの規模を誇っていました。82 ヘクタールを超える広さの境内には 48 の子院があり、総勢 3,000 人の僧侶が修行と実務を行っていました。増上寺の門やお堂、廟などの手の込んだ建築物は、江戸の職人技を示す絶好例でした。

1867 年に徳川幕府が終焉を迎えた後、増上寺の命運は 1870 年代に起こった廃仏運動によって不遇なものとなりました。多くの建物が焼かれ、境内の一部は公園に転用されました。しかし、増上寺の歴史上で最大の災害は、寺の重要な建物のほとんどを焼きつくした 1945 年の東京大空襲でした。

今日、境内の面積は最盛期の 15 分の 1 ほどになったものの、建物の多くは忠実に再建・復元されています。増上寺は今でも権威ある浄土宗の道場であり祈りの場でありつづけています。また、世界各国から訪れる人々に人気のスポットでもあります。